

緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について

夢洲の万博会場整備にあたり、緑地・樹木を利用する鳥類への配慮として、次のとおり様々な植栽等を行うことにより、鳥類の生息等が可能な環境の確保に努めます。

万博会場内での主な緑地整備の場所を図1に、整備スケジュールを図2に示します。

- 夢洲及びその周辺で見られる鳥類が、一時的なとまりや休息として利用可能な場所となるよう、会場中心部（図1の①）に、関西の里山を構成する在来種を中心とした高木約1,500本や下草など、夢洲の環境に適した樹種を植栽し、広さ約2.3haの「静けさの森」を整備しますが、万博閉幕後は移植工事等に移行します。
- ヒバリ、セッカなど、開放的な空間や草地を好む鳥類が飛来可能な場所となるよう、万博会場の西部（図1の②）では、盛土後の法面約1.8haに芝系を中心とした種子の吹き付けを行い、緑地を確保します。
- 「静けさの森」や万博会場の西部以外の場所においても、会場内全体で花き類や植栽帯の配置等を計画し、緑量の確保に努めます。
- 万博会場の南西部に位置する「つながりの海」内にある沈殿池（図1の③）は、大阪市が土地造成を行うために水位を一時的に下げたことで、水域部分の一部が陸域化し、湿地帯が形成されたことで植物等が生育するようになり、シギ・チドリ類などの鳥類が好む環境となっていることから、海水を引き入れるまでは現状の維持に努めて参りますが、万博閉幕後は海水を放流して原状復帰後、大阪市に返還します。

以上のとおり、万博閉幕までの間、緑地・樹木についての整備・維持に努めることで、これらの場所が鳥類においても、一時的なとまりや休息等に利用可能な環境となるよう努めて参ります。

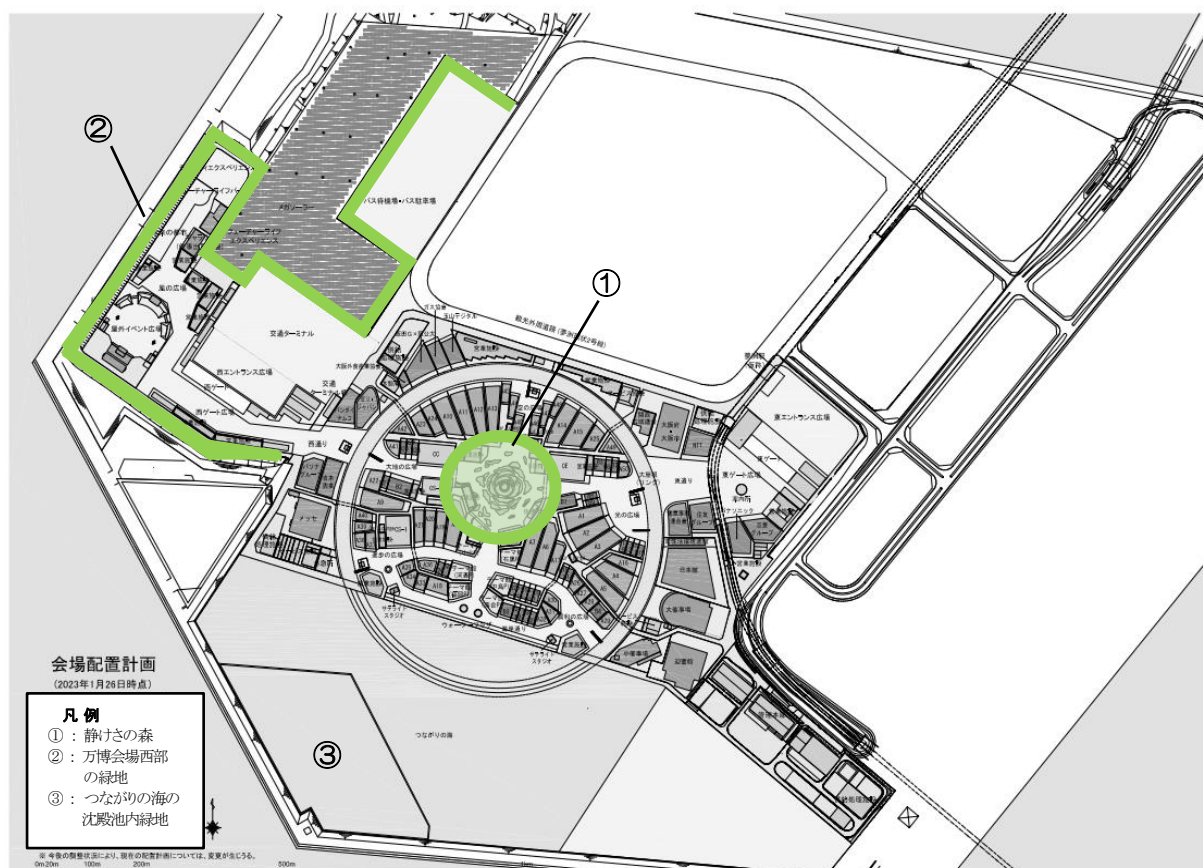


図1 緑地・樹木等の配置図

場 所 (候補地)	2024 (令和6) 年度	2025 (令和7) 年度	2026 (令和8) 年度
① 静けさの森	植栽工事等	大阪・関西万博開催	移植工事等
	鳥類が利用可能		
② 万博会場西部の緑地 (※1)	植栽工事等	大阪・関西万博開催	
	鳥類が利用可能		
③ つなかりの海の沈殿池内緑地 (※2)	鳥類が利用可能	海水の引き入れ期間	(※3)
		放流	

※1 環境影響評価書では「グリーンワールド」と表記

※2 環境影響評価書では「WW沈殿池等」と表記

※3 原状復帰されたエリアより大阪市に返還

図2 緑地・樹木の整備スケジュール